

2000年11月15日発行
〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-15-9
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771
e-mail. hoshiba@ain.co.jp
発行責任者 干場貫二

はじめに

院長 干場貫二

今年は秋晴れも少なく、一気に冬へと突き進んでしまいましたが、皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか。

先月よりこのニュースレターを発行し、皆様から色々声を頂けるようになりました。今後ともこの紙面を通して皆さんの声を反映させていき、より良い「ほしば歯科医院」を作っていこうと考えています。

また、今月は当院のリーフレットを製作しました。どうしても「口」と言う狭い範囲で考えられがちの歯科ですが、あくまでも「体」全体を見ていくことこそ私たちの医療の目標であるということをお伝えできればと思っています。ぜひ一度ご覧になってください。

これから本格的な冬に向かって体調を崩さないようくれぐれもお気をつけ下さい。

ほしば歯科医院のスタッフ

「ほしば歯科医院」には、歯科医師、研修生以外にも多くのスタッフが従事しています（全員女性です）。それが歯科衛生士と歯科助手です。

歯科衛生士は本当に歯科医師の治療を進める上で不可欠な存在であり、歯科医院全体の流れをコントロールする役割を担っています。さらに、歯石を取ったり、歯を磨いたりといった「歯ぐき」の治療のスペシャリストとも言えます。当院ではベテランの（失礼！）古川さんが従事してくれており、歯科医師全員の厚い信頼のもと、明るく頑張っています。

歯科助手は、治療以外の部分を一手に引き受けてくれる心強いスタッフです。当院には、常勤、非常勤を合わせ7人が交代制で従事しています。

受付業務、保険請求業務の他に、診療補助や備品の管理等、ありとあらゆる業務を行なっています。その筆頭は何と言っても受付の森川さん。当院の事務管理一切を受けおっています。診療室では那須さん、高橋さんを中心に植草さん、札木さん、青山さん、清水さんが大活躍です。

そう考えると当院はやさしく、パワフルな女性に

支えられているんですね。

在宅ケアについて

介護保険の導入とともに、在宅ケアがクローズアップされるようになりました。しかし、実際問題、在宅でのケアはきれいごとではなく、心身ともに疲労してきたり、金銭面で不安になることも多くあります。当院でもそのような方たちと多く関わってきました。もちろん一歯科医院に出来ることは限られていますが、可能な限り力になりたいと考えています。

介護に関するちょっとした疑問から相談する相手がおらず困っているような時まで、ぜひ一度声をかけてみてください。何かお役に立てるかもしれません。

（在宅ケア担当・五島）

ほしば歯科医院の色

「ほしば歯科医院」にはじめて来られると大体の方がその雰囲気は一瞬たじろがれます。何だと思えますか？ 実は、医療機関には珍しく、床の色が黒をベースにしてあるのです。多くの医院は白を基調にしてあるのになぜ当院だけこのような配色にしているのでしょうか。

もちろんこれには理由があります。歯科診療というものはとかく削ったり詰めたりする作業が多く、床面が汚れやすいものなのです。白を基調にしていると汚れが目立たないのですが、そのまま放置される可能性も高いのです。一方、黒を基調にした床であれば汚れは目立ち、どこを掃除するのか一目瞭然です。

いくらこのような発想をしたからと言って実際にその汚れを取ってくれる人がいなくては始まりません。その点、わが「ほしば歯科医院」には気遣いのプロがたくさんいます。ちょっと汚れているとすぐにほうきを持ち出す姿をよく目にします。ありがたいことです。

患者さんのお話

「ほしば歯科医院」に来ていただける患者さんはなぜ当医院を選んでくれたのでしょうか。私たちはそのことを本当に深く考え、感謝しながらより良い診療室作りをしていかななくてはならないと思います。そんな中で、私たちも勉強させていただいた患者さんを紹介します。

数年前に他院で入れたインプラントの調子が悪くなったNさん（男性）。インプラントとは、歯が抜けてしまった場所に人工的な歯の根っこを植え付けると言うものです。しかし、残念ながら夢の治療と思われているインプラントも診断を誤ったり、メンテナンスが悪いと「性質（たち）の悪い」ものになってしまうのです。

Nさんが初診でみえた時は、インプラントが悪くなってしまったこともあり、どこか不安げな表情でした。やむなく当院でインプラントを除去し、入れ歯を調整していく度に表情が穏やかになってこられ、私たちもほっとしていました。

このNさん、実は尺八名人。入れ歯を入れたために音が出なくなってしまい、現役を引退していました。ところが、独学で入れ歯を勉強し、入れ歯の前歯を上手く削って音が出るようになったらしいのです（すごいっ！）。今回、インプラントを除去して肩こりも治ったそうです。それとともに尺八の音も良くなったりして。

今回のNさんのケースを通して私たちは多くのことを学びました。よく、歯医者の中には「入れ歯をいじるな！」と言う人もいますが、自分の入れ歯は自分自身が最も熟知しているものです。私たちもNさんに、「尺八の音の出せる入れ歯」を教えてくださいたいと思います。

診療のお話

麻酔のこと 2

さて、前回に引き続き麻酔のお話をしましょう。何と言っても注射のことは気になりますものね。

注射は同じ量すれば同じ効果が出るかと言うとそうではありません。注射をする部位やそのスピードによっても異なります。つまり、注射の上手い人、下手な人もいるのです。ただし、それだけではありません。注射を受ける患者さん自身の体調によってもその効果は大きく異なるのです。

例えば、炎症がひどくなり、痛みがあるような場合はほとんど麻酔の効果はありません。また、寝不足などで体調が悪い時にもなかなか効きません。私たちもできるだけ少量で効果の出る麻酔を心がけますので、皆さんも可能な限り体調を整えて診療を

受けるようにしてください。と言っても歯が痛くて寝不足なんてことが多いんですけどね。

ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771（院長直通）

e-mail hoshiba@ain.co.jp（干場）

tomogoto@ra2.so-net.ne.jp

（在宅診療部；五島）

掲示板

11月 18日（土） 五島休診
失語症シンポジウム参加の為
29日（水） 干場院長休診
研修の為

編集後記

「ほしば歯科医院ニュースレター」の第2号はいかがでしたか？ 先月から創刊してまだまもなく、十分に皆様の声にお答えできてはいないように思いますが、逆に言うと最初の一步ですから色々チャレンジしていきたいと考えています。

また、当院のリーフレットはご覧になりましたか？ いかがでしょうか。本来広報媒体ですから、これまで当院を訪れたことのない方に見ていただくものですが、今回は通院して頂いている方へのメッセージも含まれています。どうぞ感想をお寄せ下さい。

これからも「ほしば歯科医院」に一言はさんでくださいね。楽しみにしています。

これからも宜しくお願い致します。（T）

コラム

青眼

青眼（せいがん）とは、青く、澄んだ瞳で見つめるということ指します。私たちも歯科治療だけでなく、医療を、福祉を、そしてこの複雑な社会を正しい目で見たいと思います。